

安曇野市災害時区長ハンドブックの発行にあたり

昨年は1月1日に能登半島地震が発生し、石川県を中心に甚大な被害が生じました。ここ安曇野においても、「糸魚川－静岡構造線断層帯」が存在しており、いつ大規模な地震が発生してもおかしくない状況です。また、近年の気候変動により、台風や集中豪雨による風水害・土砂災害の発生も懸念されます。

安曇野市区長会では、地域における防災を重大な地域課題と捉え、これまで専門部会や研修の機会を通じて検討を重ねてきました。最近では、令和4年度に防災訓練の方法や備蓄品の考え方、情報収集・発信の方法等をまとめた「自主防災組織訓練マニュアル」の作成、令和5年度に平成29年3月に作成した「安曇野市コミュニティ・マニュアル（防災編）」の改訂を実施してきました。

令和6年度の専門部会（防災部会）では、初回に「各区の防災上の課題」や「防災部会として取り組むべき事項」について部会員から意見を募ったところ、「区長として災害時にどのような行動を取るべきか分からない」という課題が多く挙げられました。

そこで、区長が災害発生時に適切な判断と行動ができるよう、指針となるハンドブックを作成することを本年度の専門部会の目標とし、編集作業に着手しました。

まず、本ハンドブックの作成にあたり、次の3つの方針を定めました。

1. 大規模災害時でも携行しやすいように、コンパクトな手帳サイズとする。
2. 区長のやるべきことを順序立てて整理し、具体的なイメージが持てる内容とする。
3. 必要最低限の文字数で要点を押さえた表現とし、簡潔で分かりやすい内容とする。

これらの方針に基づき、「平常時の備え」「大地震対応」「風水害・土砂災害対応」「避難場所開設の流れ」「連絡先一覧」について項目ごとに必要な手順や情報をまとめ、災害発生時に区長の行動指針となる「安曇野市災害時区長ハンドブック」として編集しました。

本ハンドブックは、「いざという時のお守り」として末永くご利用いただきたいという思いを込め、過酷な現場にも耐えられるよう耐水用紙にて作成しております。今後、区長が交代する際にも必ず引き継いでいただき、いざという時に活用してほしいと考えています。あわせて、ハンドブックの内容を一連の流れで分かりやすく示したチャート式の手順表も作成しましたので、公民館や集会所等、区の役員や区民の皆さんにも見える場所に掲示していただき、区民が力を合わせて災害に負けない地域をつくるための一助になることを願っています。

令和6年度 安曇野市区長会
会長 等々力 正彦